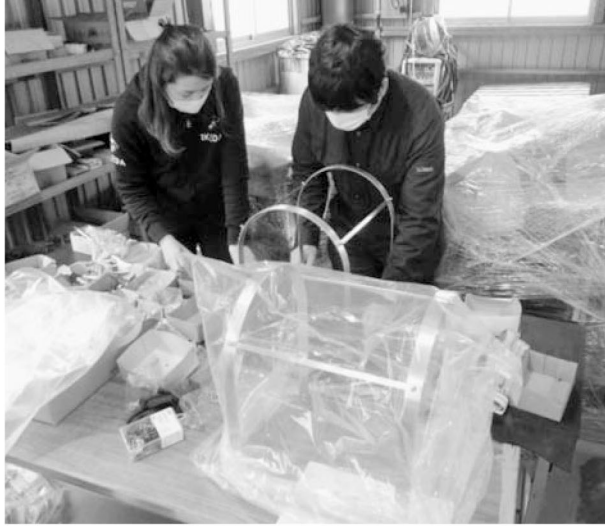


# 医療崩壊を防げ！



大型ゴミ袋などシート素材と組み合わせ飛沫を防ぐ被覆具

木幡計器製作所（大阪市大正区）を中心とする大阪市内の中小企業7社が技術力を結集し、このほど感染症患者搬送用ストレッチャーの頭部分に装着して飛沫を防ぐ被覆具を作製した。市内の病院から相談を受け、パーツ加工、組み立てを行い、わずか25時間という短納期で納入した。新型コロナウイルス感染症拡大により、医療現場で防護具などが不足する中、モノづくり企業が駆けた。

（大阪・坂田三子）

ストレッチャー頭部被覆具  
25時間で納入

4月21日11時半、医療用計測器を製造する木幡計器製作所に病院から相談が舞い込んだ。同病院は新型コロナウイルス卸商社の在庫になか

新型コロナ  
緊急事態宣言

病院の焦りを感じ取った木幡社長は、すぐさま、大阪商工会議所の「町工場ネットワーキング」メンバーに無料通話アプリで拡散。近隣

1面参照

## 大阪中小7社 技術と思い 結集

企業を中心に7社が大正区）がとりまとめ、エブ会議で集まり製作が始まった。

加工材料は「から手配しては間に合わない。うちの工場に厚みが合致するアルミニウム端材がある」と土井商店（大阪市大正区）がフレーム材料を用意。光機械工業（大阪市大正区）が形状と厚みに合うネジを探した。切断や曲げ、穴あけを泰製作所（大阪市港区）が担い、万一にもシート素材が破れないよう、南園車製作所（大阪市港区）が念入りにバリ取りを施した。

その後、木幡計器と西村鉄工所（大阪市大正区）がとりまとめ、翌22日、集まれる関係者が池田鉄工所（大阪市大正区）で組み立て、11時半にテストを完了。12時半に病院へ持ち込んだ。

各社は今回の病院からの依頼を無償で引き受けた。木幡計器製作所の木幡社長は「この時期だから、医療に貢献したいという思いを持つ企業は多い」と語る。

大阪府が模索する経済活動の段階的解除において、医療崩壊を起ささない体制整備は必須。製造業は、医療の最前線で働く人の安全性を下支えることができる。